

F-REI 市町村座談会（広野町）議事要旨

1. 日 時 令和5年9月29日(火) 16:00～17:20

2. 場 所 広野町文化交流施設 ひろの未来館 多目的ホール

3. 議 事

(1) 開 会

(2) 挨拶

(3) F-REI の取組紹介

(4) 意見交換

<テーマ> F-REI との未来の連携について

(5) 閉 会

【主な発言内容】

- 本センターは、震災直後から10年、環境測定等で被災地を支援してきた。
- 住民の帰還が進むにつれ、産業や教育をよりよくするため、広野町のまちづくりの方針に合わせ、2018年頃から α 線を用いた医薬品の開発による産業振興及びそれを通じた教育という方向に舵を切った。
- 我々が大学としてF-REIにどのように貢献できるか、こうして直接話ができる機会を楽しみにしていた。
- 広野町はこの地域では便利な方ではあるが、地元のスーパーで地物の魚が買えないのが残念。
- 科学教育の重要性を伝える必要があると考え、この地域の子供たちに科学の良さと怖さを伝えようと活動している。
- 広野町にはふたば未来学園高校があるが、広野町より北の双葉郡内の高校は現在休校となっているため、それが世界中から研究者を招く際の課題となると思う。
- 原子力災害により科学に対するマイナスイメージがついたが、本校では科学は生活を支えるものであることを小中学生に伝えるために様々な活動を行っている。

- 広野町のみかんから採取した微生物から生活に役立つ酵母菌を発見した。それを産業等に利用できないか色々取り組んでいる。
- また、石油の消費量を減少させるため、町の振興公社で栽培しているバナナの残渣をプラスチックの原料として製品化できないか研究を進めている。
- 当社では、広野町で復興のシンボルとしてバナナの栽培を行っている。まずは、収入を安定化させることが課題であり、福島工業高等専門学校等とタイアップしながら取り組んでいる。
- 広野町では、基幹産業である農業の振興が重要であると考えており、F-REI の農業分野での研究開発に期待している。
- エネルギー分野について、個人的には 2050 年までに CO2 をゼロにすることは厳しいと思っている。再生可能エネルギーを安定した経済の基盤となる電源とするためには、1 人ひとりが真剣に考える必要がある。F-REI には、水素エネルギーの活用や CO2 の処分方法といった研究開発にも期待している。
- 当社では、2050 年までにゼロエミッションを達成することをビジョンに掲げ、水素や風力などの技術を進化させるべくチャレンジを行っている。しかしながら、現状では電力需給の関係上、火力に頼らざるを得ない。
- 運営面において、省力化やデジタル化は進展しているが、発電所内の設備のメンテナンスや工事等に係る作業については、作業員の高齢化による人手不足が生じているため、F-REI にはこうした分野に関するロボット、ドローンの研究開発に期待している。
- 広野町商工会は避難地域として一番初めに再開したため、再開率はほぼ 100%となっている。
- 会員のほとんどが小規模事業者であり、F-REI の研究に直接関わることは難しいと思われるが、広野町は教育環境が整っており、研究者やその家族の移住・定住等の面で商工会が携わりたいと考えている。
- 広野町は宿泊施設が充実しているため、F-REI 関係者には出張の際にぜひ活用して欲しい。

- 人材育成について、地元の子供たちがF-REIの研究者との交流を通じて、科学に興味を持ち、将来研究者を目指すようなことを期待している。
- F-REI設立により交流人口の増加を期待しており、商工会としても事業所マップを作成等の情報発信に力を入れたいと考えている。また、地元企業との取引の増加についても期待している。
- 地元企業として、F-REIの研究開発が産業化や社会実装につながることを期待している。
- 当社では、遠隔操作ロボットによる廃炉作業やバイオマス発電、太陽光発電の設備の運営等を行っている。エネルギー分野における水素の活用やスマート農業にも関心があり、こうした分野でもF-REIと連携したいと考えている。
- 農家の収入をサラリーマン並みに向上させないと、後継者不足の問題は解決しない。町内の認定農家20数軒に調査したところ、10年後に残っているのは数件という結果も出た。F-REIの研究が米価の底上げ等につながり、新規就農や後継者問題を解消できるような環境となることを期待している。
- 婦人会では、月1回の駅の掃除やイベントでの豚汁の販売など地域交流の活動をしているが、会員の高齢化と減少という課題に直面している。
- 当協議会では、町民の健康維持のための啓蒙活動を続けている。
- 民間企業と連携して「男の料理教室」を行い、それを減塩レシピ本にまとめた。料理教室やそば打ち体験を実施しているので、研究者の皆様にも参加していただきたい。